



山重っ子

校訓「やさしく かしこく たくましく」



自己有能感が向上する充実した夏休みに！

校長 川崎 正

7月20日に1学期終業式を迎え、21日から夏休みが始まります。夏休みは、これまでの学習や生活を見つめ直し、2学期に備え、志を新たにす絶好の機会です。

そのためにも、この夏休みに、子どもたちには様々な体験活動から多くの事を学んでほしいと思います。昔と比べると自然の中で遊ぶことが少なくなっています。自然の中で活動すると、子ども自身が考えて行動しないといけないことがたくさん出てきます。他の人と協力しないと解決できないことも出てきます。そんな活動を通して「他人を思いやる優しい心」が培われ、「課題を解決する力」や「自分で考えて行動する力」が育まれると思います。更に、「たくましく生き抜くための知恵や技術」を身に付けたり、「危険を予知し、回避する能力」を育てることができると思います。

先日、「キラリ輝くしぶっ子」育成講演会があり、『子どもの個性と自己有能感の向上』という演題で、鹿児島市内幼稚園の福田雅紀園長先生からお話を聞きました。福田先生は、特別支援教育にも経験豊かな先生です。その中で、自分はできるという「自己有能感」を高める5つの褒め方について次のように話されました。

【子どもの自己有能感を高める5つの褒め方】

- 1 褒め言葉 **5 S** 「さすが、○○さん」「すごいね、○○さん」「すてきだね、○○さん」「すばらしい、○○さん」「それでいいよ、○○さん」…すぐに、まめに、さりげなく褒める
- 2 守れそうなルールを子どもと一緒に決めて、守れた時に褒める。もし、守れなかったとしても、守れたところまでを褒めて励ます。
- 3 情報を入れて分かりやすく褒める。～具体的な行動や回数などを入れて褒めると、子どもにとって次に何を頑張ればよいか分かりやすくなり、更なる行動の変化へとつながる。
- 4 場面場面で褒める。～場面場面でタイミングよく褒めることで、子どもは最後まで意欲的に取り組むことができる。
- 5 できたところまでは褒める。～できたところまではちゃんと認めてあげて励ますと、今度は最後まで頑張ろうという気持ちを持つことができる。（「あ～、結局できなかったね。」はNG）

子どもは達成感を感じた時、自己有能感も高まります。この夏休み、1日1回で構いません。子どもとしっかり向き合い、子どもの話にしっかり耳を傾け、学習や生活、お手伝いや体験活動などでできたことを褒めて、自己有能感が高まる充実した夏休みになることを願っております。そして、9月1日の2学期始業式で、また、元気に会えるのを楽しみにしています。

※ 夏休みに入りますと、学校生活を離れる気の緩み等から、思わぬ事故(交通事故、水難事故、不審者事案、非行等)が発生しがちです。「地域の子どもは、地域で育てる」といった気持ちで温かい声かけなど、よろしく願いいたします。